

株式会社サンキョウ・エンビックス

「改正労働安全衛生法に基づく健康障害防止リスクアセスメントコンサルティング」

サンキョウ・エンビックスは大気や水質など環境分野の測定・分析を40年以上手がけてきた。測定・分析事業を基盤に環境コンサルティングなどサービス分野にも事業を拡大。国際標準化機構 (ISO) の認証取得を支援するコンサルティングではこれまでに36社の取得支援を行うなど実績を残している。これまでのノウハウを生かし、今後は有害物質のリスクアセスメントのコンサルティング事業を展開する。

会社概況

「環境の測定・分析で基盤」

1 972年に岡山市で公害測定の子会社として創業した。当時は公害が社会問題化していた時代だった。1975年には計量法の改正により環境計量証明の需要が出てくると見て、岡山県に環境計量証明事業所として登録。測定・分析事業はその後、会社の基盤を築くことになった。

現在は測定・分析事業のほか、環境コンサルティング、環境サポートの3事業を展開する。測定・分析事業は空気、水、音、廃棄物、作業環境と大変幅広い分野を網羅。最新の分析装置を導入し、環境の改善につながるデータを提供。さらに試験所認定と呼ばれるISO/IEC17025の認定取得など体制を充実、数多くの顧客の課題に対応してきた技術力で他社との差別化を図っている。



測定分析事業を基盤に事業を多角化

ものづくり補助金事業内容

「36社のISO取得支援」

環境アセスメントやISO取得支援などサービス部門の業務は1990年代に始めた。測定・分析事業で培った知見を基に顧客の課題解決を図るのが目的だった。中でもISOの認証取得コンサルティング業務は1999年の開始後、これまでに36社の支援を手がけた。

ISO9000シリーズは品質マネジメントの国際規格。認定取得の支援は「社内でのルール作りと、その実践が重要になる」(浅野浩一社長)という方針のもと、社員教育を最重要課題と考え、会社ごとにオーダーメイドで内容を策定する。数多くの事業場を見てきたことで、効果的な改善の視点を培った。こうした改善視点を基盤として、今後は化学物質のリスクマネジメントコンサルティングを提供する。



導入した分析機器で高精度・高感度に化学物質を検出

事業成果

「作業者の健康被害を防ぐ」

2 014年に労働安全衛生法が改正され、化学製品などの有害物質を扱う事業所はリスクアセスメントの策定が義務づけられた。大手企業は専門の部署もあり導入が進んでいるが、中小企業の対応は会社によって濃淡がある状況という。小規模の事業所の中には「何が化学物質かさえも認識していない会社もある」(高月克己衛生企画部長)のが現状だ。

リスクアセスメントの目的は有害な化学物質を長時間取り扱うことによる、作業者の健康被害を防ぐことにある。コンサルティングではまず、社内の有害物質は何か、アセスメントの対象物質かといった基本的事項の確認を第一に行う。その後、作業方法の変更や環境改善につながる装置の導入などを助言・提供していく方針だ



事業所ごとにリスクを特定した化学物質を分析・評価

代表インタビュー



代表取締役
あさの ひろかず
浅野 浩一さん

「地域から愛される会社に」

ーISO認証取得では社員教育を重視された支援が特徴です。

「これまで36社の支援を行い、8割が品質マネジメントの9000シリーズ。当初は建設業、その後は製造業の認証取得支援が多くなった。ISOはルールづくりであり、取得後に当社が来なくなってもルールを守ることができるかは、社員がルールを正しく理解出来たかにかかっている。そのためには社員教育が重要になる」

ー御社でも社員教育を重視されていますか。
「大変重視している。毎年作成する経営指針で、社員一人ずつ、今年はこういう目標に向かって、どんなことを実践していくか決めている。そのために資格の取得やリーダー研修などに参加する費用を会社が負担している。1人当たり年間15万円程度になる。社員が力を付けてきたので、今回のものづくり補助金の事業も展開できるようになった」

ーどんな会社を目指しますか。
「日本でいちばん大切にしたい会社になれるよう頑張っている。そのためには地域から愛される会社でなければならない。その前にまず社員が満足する会社でありたいと考えている」

事業者概要

代表者名 浅野 浩一
設立年 1972年
資本金 1,000万円
従業員数 30人
売上高 2.9億円(2017年12月期)

所在地 岡山市南区米倉66の2
TEL 086・242・1035
FAX 086・242・1036
URL <http://sankyo-ltd.co.jp>
業種 環境調査・環境コンサルティングなど